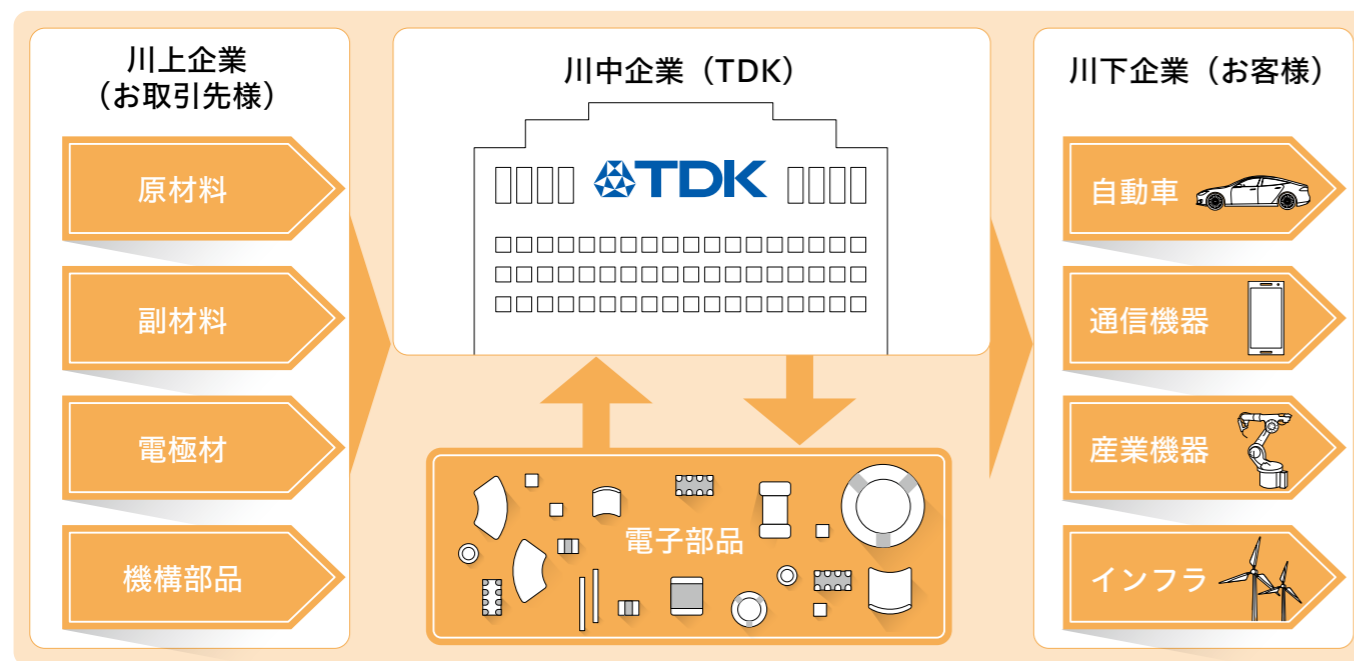


サプライチェーンにおける社会・環境配慮

- 重要テーマ
- 生産拠点における労働環境配慮
 - サプライヤーにおける労働環境配慮
 - 紛争鉱物への対応

サプライチェーンにおけるTDKの責任



川中企業としての責任を果たすために

素材・部品技術を土台に付加価値の高いソリューションを提供するTDK。グローバル化の加速や対象市場が拡大する中、お客様およびお取引先様も多岐にわたり、ビジネスによっては、バイヤーかつサプライヤーの関係にある企業も珍しくありません。2015年3月にイギリスで成立した「現代奴隷法」や、2017年10月にEICC(Electronic Industry Citizenship Coalition:電子業界CSRアライアンス)が、業界の枠を超えるRBA(Responsible Business Alliance:責任ある企業同盟)に変更するなど、サプライチェーンにかかる法制度や国際的な業界イニシアチブなどが強化されています。こうした動きは、TDKの事業環境に大きく影響を受けることから、動向を踏まえた対応は取引を継続するうえで欠かせません。また、サプライチェーンでのCSRを合理的かつ効果的に実施するためには、社会課題に対する共通認識と調査の共通化が不可欠です。TDKはサプライチェーン全体での効率改善に寄与するためにも、各種団体活動にルール策定の段階から参画し、業界全体で連携するとともに、調査手法の共通化の提案などを行っています。

紛争鉱物への対応

責任ある鉱物調達への関心の高まりを踏まえ、川中企業として、課題解決に向けた取り組みをサプライチェーン全体で推進しています。

TDKのアプローチ

世界各地で鉱物調達を巡る人権問題が社会問題化しており、責任ある鉱物調達への関心が高まっています。特に、コンゴ民主共和国(Democratic Republic of the Congo:以下、DRC)および隣接国産の鉱物は、武装勢力の資金源となることがあり、紛争の助長や地域住民に対する人権侵害の問題がいち早くクローズアップされてきました。TDKでは2013年4月に、TDKグループの「紛争鉱物」に関するポリシー^{※1}を制定し、グループ各社にて調査回答体制を構築して対応するとともに、OECDデュー・デリジェンス・ガイダンスに沿った取り組みを行っています。

※1 TDKグループの「紛争鉱物」に関するポリシーは、WEBをご覧ください。 http://www.tdk.co.jp/corp/ja/csr/social/supplier_responsibility/csr02210.htm

2017年度目標と実績

目標	実績	主な活動施策
<ul style="list-style-type: none"> ● DRC Conflict-freeが確認されたサプライヤー比率85%以上 ● お客様回答件数のモニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ● DRC Conflict-freeが確認されたサプライヤー比率92.3% ● モニタリング実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ共通KPIに基づき、グループ各社における調査回答の実施とDRC Conflict-free化推進 ● 業界団体と連携した、課題解決の推進

グループ各社における、調査回答の実施とDRC Conflict-free化の推進

お取引先様には、DRC Conflict-freeへの期待を要請するとともに、紛争鉱物の調査回答には、調査回答の合理性を担保するため、RMI^{※2}が公表している紛争鉱物報告テンプレート(CMRT)^{※3}を使用しています。2017年度もグループ各社にて紛争鉱物調査を実施し、DRC Conflict-freeが確認されたサプライヤー比率は92.3%となり、目標の85%以上を達成しました。なお、現時点では、DRCおよび隣接国の武装勢力の資金源への関与が疑われる鉱物は確認されていません。また、お客様からの要請に対し、適宜対応し、回答件数のモニタリングを実施しています。

※2 RMI:Responsible Minerals Initiative 世界で350以上の企業や団体が加盟する、責任ある鉱物調達に関する取り組みを主導している団体。
 ※3 CMRT:Conflict Minerals Reporting Template

業界団体と連携した、課題解決の推進

TDKはJEITA「責任ある鉱物調達検討会」^{※4}に発足当初から参加しています。2017年度は、紛争鉱物調査説明会に説明員として参加、紛争鉱物のデータ交換規格「IPC-1755」のEU規則を踏まえた改定作業への協力、製錬業者に対するConflict-free認定への働きかけなどを実施しました。

※4 JEITA「責任ある鉱物調達検討会」の詳細は、WEBをご覧ください。 <https://home.jeita.or.jp/mineral/>



JEITA紛争鉱物調査説明会の様子(2017年6月)



サプライヤーとしての取り組み (生産拠点における労働環境配慮)

お客様が製品を調達するサプライヤーであるTDKは、自社製造拠点での社会・環境配慮に努め、その責任を果たします。

TDKのアプローチ

TDKはサプライヤーとして、自社グループ製造拠点での社会・環境配慮に努め、社会的責任を果たすことが、事業を継続するうえでも重要と認識しています。セルフチェックの実施や拠点所在国のリスクに応じた監査などを通じて、課題把握と改善に努めています。

2017年度目標と実績

目標	実績	主な活動施策
<ul style="list-style-type: none"> ● 製造拠点におけるCSRセルフチェック100%実施 ● 第三者機関による2年に1回の監査機会確保100%実施 (中国・アジア地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 100%実施 ● 100%実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全対象拠点(82拠点)に対し、CSRセルフチェックを実施 ● 中国・アジア地区にある対象39拠点のうち、過去2年お客様による「CSR監査」を受けていない8拠点で第三者機関によるCSR自主監査を実施 ● 日本でCSR内部監査員養成研修実施(2017年度までの受講者数:のべ217名)

セルフチェックおよび監査の実施と継続的な改善活動

TDKでは、CSR活動の課題把握とお客様への迅速な回答を目的に、RBAのセルフアセスメントをベースとした「TDK CSRセルフチェックシート」を作成し、すべての対象製造拠点で自己診断を毎年実施しています。また、お客様によるCSR監査の機会を、CSR活動レベル向上の機会と捉えて対応するとともに、リスクの高い中国・アジア地区の製造拠点においては、お客様によるCSR監査を含め、2年に1回、第三者機関によるCSR自主監査を行っています。こうしたCSR監査が求める内容を体系的に理解し、製造拠点でのCSR活動のレベルアップを目的としたCSR内部監査員養成研修やワークショップなどのトレーニングを定期的に実施しています。

日本・中国・マレーシアでCSRトレーニングを開催

CSR活動のさらなるレベルアップを目的に、2017年度は、日本、中国、マレーシアで、それぞれCSRトレーニングを実施しました。日本では、19名が参加し、RBAの内部監査員のトレーニングを実施しました。中国では、28名が参加し、改訂されたRBA行動規範の解説や教育体系のあり方について理解を深めました。また、マレーシアでは14名が参加し、現地でのCSR自主監査に参加するとともに、CSR監査実施手法についての実習を行いました。



マレーシアでのトレーニングの様子(2017年12月)



バイヤーとしての取り組み (サプライヤーにおける労働環境配慮)

原材料を調達するバイヤーとして、TDKはコミュニケーションを大切にしたCSR調達を行い、固い信頼関係を構築することで、お取引先様とTDK両社の企業価値が高まると考えます。

TDKのアプローチ(購買理念・購買方針)

TDKは、日本およびアジア・アメリカ・ヨーロッパに生産拠点を置いてグローバルに生産しています。そしてこれを支える調達活動は、電子業界のスピード競争とそれに伴うスピーディな製品開発、それに追従できるグローバルな購買体制の確保が重要です。生産拠点での現地調達はもちろんのこと、ITネットワークを活用したユビキタス社会における資材調達活動は、時間と空間を越えて、お取引先様とより一層緊密なコラボレーションが不可欠となっています。また、関連法令、社会規範を遵守し、地球環境の保全など企業の社会的責任を果たす取り組みについても、お取引先様と当社のパートナーシップによって積極的に推進していきます。TDKはこの理念を具現化するために、TDK購買方針^{※1}を定め、購買活動を行っています。

※1 TDK購買方針は、WEBをご覧ください。 http://www.tdk.co.jp/corp/ja/about_tdk/procurement/pro02.htm

2017年度目標と実績

目標	実績	主な活動施策
<ul style="list-style-type: none"> ● CSR適合サプライヤー比率95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ● CSR適合サプライヤー比率91.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ共通KPIに基づき、グループ各社の実態に応じた、CSRチェックシートへの回答依頼およびCSR監査実施

CSR調達の推進

TDKは、購買方針にCSRを掲げ、お取引先様にもCSRの重要性を理解していただき、その認知度を高めてもらうための働きかけをしています。グループ各社の実態に応じて、契約条項への盛り込み、CSRチェックシートによる評価やCSR監査などを継続的に実施し、内容に問題がある場合は、個別に改善を依頼しています。2017年度もグループ各社にて実施し、CSR適合サプライヤー比率は91.2%となり、2016年度より8.8%改善しましたが、目標の95%は達成できませんでした。引き続き、グループ各社およびサプライヤーへの働きかけを強化していきます。



グループ内でのCSR調達研修の様子(2017年11月 日本)

主要委託加工先へのCSR監査実施

TDKでは、労働環境リスクの高い中国において、2015年度より、依存度の高い委託加工先に対してCSR監査を実施しています。2017年度は3社のCSR監査を実施し、計21件の指摘事項がありました。主な指摘として、個人防護具の不備などがあり、改善を依頼しました。

